

私のひいおじいちゃんとひいおばあちゃんは戦争の体験者です。

戦争のことをおばあちゃんが語ってくれました。

ひいおじいちゃんは兵隊としてシンガポールへ行き、ひいおばあちゃんは二人の子供をつれて県外へ疎開しました。おばあちゃん達のように出航した船のなかには、沈没した船もあったそうです。幸い、おばあちゃん達が乗った船は何もなかったが、船の中でおびえていたといいます。

この話を聞いて、戦争のこわさが伝わりました。

ぎゅうぎゅうとせまい船の中で、食べ物もなくおびえながら兵庫へ行ったひいおばあちゃん。兵隊として日本、天皇のために一生懸命に戦ったひいおじいちゃん。この二人がつないでくれた私の命。命はとても大切だということを、強く思い知りました。そして、おばあちゃんが

「今は平和だね。命に感じやしなくちゃ。」
と言った。

今の日本、沖縄は平和。今は戦争のないこの日本、沖縄。この地に、六十七年前戦争がおこり、多くの人の尊い命がうばわれました。

「平和ってなんだろう。」

「戦争のないことが平和なのか。」

その日から、私は平和についてじっくりと考えるようになりました。

私は今、ふつうに生きている。この、ふつうが平和という。

毎日のように食べ物を食べ、水を飲み、友達と遊び、学校で勉強し、大好きなバレエを練習し、家に帰ったら大切な家族がいる。この生活がすごく幸せ。平和。

平和であたりまえの生活をしている私達。その生活に感じやすする。命をつないでくれたひいおじいちゃんとひいおばあちゃんに感じやすする。命に感じやすする。

すべてはうまくいっている。六十七年前、多くの人の命をうばった戦争。この戦争で日本は負けた。そのことで、日本は戦争をしないことをちかった。昔、色々あったからこそ、今の日本は平和。

でも今、世界じゅうのどこかで戦争はおきている。その地でも、多くの人々の命がいつしゅんでなくなる。その先祖たちが一生懸命つないだ命が、あつという間に消されていく。

この大切な命が消されていくのを知って、人々はどう思うのか。

私は戦争はいけないと思う。生まれたときから大切にされてきた一人ひとりの命。この命を消してはいけない。人の命をうばう戦争はいやだ。いつまでも、みんなが笑顔でいられる世の中にしたい。ずっと平和な世界であってほしい。私はそう思います。

今、私が生きていることが平和。

今を幸せで、楽しいと思えることが平和。

おばあちゃんの話聞いて、私は平和ということの意味を知りました。

これから私達は大人になっていく。この社会を私達がリードしていく。その時私は、平和な世の中をつくっていくようにがんばり、戦争のこわさを伝え、そして、平和ということの意味をみ

んなに教えたい。

一生懸命に命をつないでくれたおばあちゃん達のように、私も命をつないでいく。
世界じゅうが平和になるように、みんなで平和な世の中をつくっていこう。